

—なし—

なし

—— 発病・加害時期
 === 発病・加害最盛期

作型・病害虫名		月												
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
露	地				開						収			
					花						穫			
黒	星	病	—————											
赤	星	病	—————											
輪	紋	病	—————											
シ	ク	ム	—————											
ハ	マ	シ	—————											
ア	ブ	シ	—————											
ハ	ダ	ニ	—————											
ニ	セ	ダ	—————											
カ	イ	シ	—————											
カ	メ	シ	—————											

黒星病

留意事項

- 1 前年度の発生状況を考え、予防散布に重点を置く。
- 2 QoI剤(11)、SDHI剤(7)は耐性菌が出現しやすいので、1作1回程度の使用に努める。
- 3 チオノックフロアブルは、かぶれに注意する。

防除方法

- 1 袋かけを行う。
- 2 被害葉は、ほ場外に持ち出し処分する。
- 3 発芽前に下記の薬剤を散布する。
 - ・石灰硫黄合剤 □ 【7倍 発芽前／—】
- 4 4月上旬から下旬に下記の薬剤を散布する。
 - ・デランフロアブル 劇 M9 【1000倍 60日／4回】
 - ・チオノックフロアブル M3 【500倍 30日／5回】
- 5 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ファンタジスタ顆粒水和剤 11 【3000～4000倍 前日／3回】
 - ・スコア顆粒水和剤 3 【2000～4000倍 14日／3回】
 - ・ナリアWDG 11 7 【2000倍 前日／3回】
 - ・ベンレート水和剤 1 【2000～3000倍 前日／4回】
 - ・パレード15フロアブル 7 【2000～3000倍 前日／2回】

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

6 収穫後に下記の薬剤を散布する。

- ・ [ICボルドー48Q](#) M1 【30倍 収穫後～開花前／—】

赤星病

留意事項

- 1 ビヤクシン類が周囲に多いと発病が多い。
- 2 SDHI剤 (7) は耐性菌が出現しやすいので、1作1回程度の使用に努める。
- 3 チオノックフロアブルは、かぶれに注意する。

防除方法

- 1 袋かけを行う。
- 2 感染期（4月上旬～下旬）に下記の薬剤を散布する。
 - ・ [デランフロアブル](#) 劇 M9 【1000倍 60日／4回】
 - ・ [チオノックフロアブル](#) M3 【500倍 30日／5回】
- 3 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [オンリーワンフロアブル](#) 3 【2000～4000倍 前日／3回】
 - ・ [アンビルフロアブル](#) 3 【1000～2000倍 7日／3回】
 - ・ [フルーツセイバー](#) 7 【1500～3000倍 前日／3回】
 - ・ [パレード15フロアブル](#) 7 【2000～3000倍 前日／2回】

輪紋病

留意事項

- 1 軟腐症状を伴う輪紋病斑を生じる。枝幹にはいぼを形成する。
- 2 落弁後から7月にかけて降雨が多いと多発する。
- 3 QoI剤 (11)、SDHI剤 (7) は耐性菌が出現しやすいので、1作1回程度の使用に努める。

防除方法

- 1 せん定時にいぼ多発枝をせん除し、ほ場外に持ち出し処分する。
- 2 発生が見込まれる時期に下記の薬剤を散布する。
 - ・ [デランフロアブル](#) 劇 M9 【1000倍 60日／4回】
 - ・ [ベルコート水和剤](#) M7 【1000～1500倍 14日／5回】
- 3 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [ベンレート水和剤](#) 1 【2000～3000倍 前日／4回】
 - ・ [オンリーワンフロアブル](#) 3 【2000倍 前日／3回】
 - ・ [ファンタジスタ顆粒水和剤](#) 11 【3000～4000倍 前日／3回】
 - ・ [パレード15フロアブル](#) 7 【2000～3000倍 前日／2回】

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

シンクイムシ類

留意事項

- 1 果実に食入するシンクイムシ類にはナシヒメシンクイ、モモシンクイガ、ナシマダラメイガなどがある。
- 2 ピレスロイド剤(3 A)を連用すると、ハダニ類、カイガラムシ類等の密度が高くなる場合があるので注意する。

防除方法

- 1 被害果や被害枝は、ほ場外に持ち出し処分する。
- 2 成虫発生期に下記の薬剤を散布する。
 - ・ [モスピラン顆粒水溶剤](#) 劇 4 A 【2000～4000倍 前日／3回】
 - ・ [ダイアジノン水和剤34](#) 劇 1 B 【日本なし 1000倍 14日／6回】
 - ・ [アディオン乳剤](#) 3 A 【2000～3000倍 前日／2回】
 - ・ [フェニックス顆粒水和剤](#) 2 8 【4000倍 前日／2回】
 - ・ [スタークル顆粒水溶剤](#)、[アルバリン顆粒水溶剤](#) 4 A 【2000倍 前日／3回】

ハマキムシ類

留意事項

- 1 幼虫が果実の表面をなめるように食害したり、葉2～3枚を重ね合わせるほか、新梢の先端を巻いたり、綴る等の被害を出す。
- 2 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

防除方法

- 1 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [エクシレルSE](#) 2 8 【2500～5000倍 前日／3回】
 - ・ [ディアナWDG](#) 5 【5000～10000倍 前日／2回】
 - ・ [アディオン乳剤](#) 3 A 【2000倍 前日／2回】
 - ・ [ダイアジノン水和剤34](#) 劇 1 B 【日本なし 1000～1500倍 14日／6回】
 - ・ [フェニックス顆粒水和剤](#) 2 8 【4000倍 前日／2回】

アブラムシ類

留意事項

- 1 発芽展葉期の防除に重点を置く。
- 2 ピレスロイド剤(3 A)を連用すると、ハダニ類、カイガラムシ類等の密度が高くなる場合があるので注意する。

防除方法

- 1 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

- ・ [アディオン乳剤](#) 3 A 【2000～3000倍 前日／2回】
- ・ [コルト顆粒水和剤](#) 9 B 【4000倍 前日／3回】
- ・ [トランスフォームフロアブル](#) 4 C 【2000～4000倍 前日／3回】
- ・ [ウララDF](#) 2 9 【2000～4000倍 14日／2回】

ハダニ類

留意事項

- 1 葉がかすり状になってからでは手遅れであるため、早期発見に努める。
- 2 マシン油乳剤を散布した後は、石灰硫黄合剤の付着が悪いので、少なくとも1ヶ月の間隔をおいて散布する。
- 3 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

防除方法

- 1 休眠期(12月～3月上旬)に下記の薬剤を散布する。
 - ・ [機械油乳剤95](#) UNM 【落葉果樹(なし、りんご、かき、もも) ハダニ類及びその越冬卵 16～24倍 -/-】
- 2 発芽前に下記の薬剤を散布する。
 - ・ [石灰硫黄合剤](#) UN 【落葉果樹 7～40倍 発芽前/-】
- 3 発生の初期に下記の薬剤を散布する。
 - ・ [ダニコングフロアブル](#) 2 5 B 【2000倍 前日／1回】
 - ・ [コロマイト乳剤](#) 6 【1000～1500倍 前日／1回】
 - ・ [スターマイトフロアブル](#) 2 5 A 【2000倍 前日／1回】
 - ・ [マイトコーネフロアブル](#) 2 0 D 【1000～1500倍 前日／1回】
 - ・ [モベントフロアブル](#) 2 3 【2000倍 14日／3回】

ニセナシサビダニ

防除方法

- 1 せん定枝は4月までにほ場外に持ち出し処分する。
- 2 休眠期(12月～3月上旬)に下記の薬剤を散布する。
 - ・ [機械油乳剤95](#) UNM 【落葉果樹(なし、りんご、かき、もも) サビダニ 16～24倍 -/-】
- 3 発生の初期に下記の薬剤を散布する。
 - ・ [コロマイト乳剤](#) 6 【1000倍 前日／1回】
 - ・ [コテツフロアブル](#) 劇 1 3 【2000～3000倍 前日／3回】
 - ・ [カネマイトフロアブル](#) 2 0 B 【1000倍 前日／1回】
 - ・ [モベントフロアブル](#) 2 3 【2000倍 14日／3回】

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

カイガラムシ類

留意事項

- 1 マシン油乳剤を散布した後は、石灰硫黄合剤の付着が悪いので、少なくとも1ヶ月の間隔をおいて散布する。
- 2 アプロード水和剤は若齢幼虫発生期に散布する。
- 3 なるべく天敵への影響の少ない薬剤（アプロード水和剤）を散布する。

防除方法

- 1 休眠期（12月～3月上旬）に下記の薬剤を散布する。
 - ・ [機械油乳剤95](#) UNM
【落葉果樹(なし、りんご、かき、もも) カイガラムシ 16～24倍 —/—】
- 2 発芽前に下記の薬剤を散布する。
 - ・ [石灰硫黄合剤](#) UN 【落葉果樹 7～10倍 発芽前/—】
- 3 第1世代幼虫発生期に下記の薬剤を散布する。
 - ・ [アプロード水和剤](#) 16 【カイガラムシ類幼虫 1000倍 30日/2回】
 - ・ [モスピラン顆粒水溶剤](#) 劇 4A 【2000～4000倍 前日/3回】
 - ・ [トランスフォームフロアブル](#) 4C 【1000～2000倍 前日/3回】

カメムシ類

留意事項

- 1 発生量や加害時期は年により変動するので、園内への飛来状況に応じて早めに防除する。
- 2 ピレスロイド剤 (3A) を連用すると、ハダニ類、カイガラムシ類等の密度が高くなる場合があるので注意する。

防除方法

- 1 袋かけを行う。
- 2 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [スタークル顆粒水溶剤](#)、[アルバリン顆粒水溶剤](#) 4A 【2000倍 前日/3回】
 - ・ [アディオン乳剤](#) 3A 【2000倍 前日/2回】
 - ・ [ダントツ水溶剤](#) 4A 【2000～4000倍 前日/3回】

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。